

AI・ロボット 転機予報 Part2 ㊟

ることが難しい理由られる「教師有り学

を、AIの精度的に人習」と呼ばれる手法で
を上回るのが難しいとは、「教師ラベル」と

データの重要性

という観点からお伝えし
た。今回はもう一つの
面からその理由をお伝
えしたい。

AIに関する基礎知
識をお持ちの方であれ
ばご存じだと思いが、
「機械学習」と呼ばれ

入力が際の際の理想的な
出力内容を表した模範
解答が必要になる。言
つてしまえば、AIは
あくまでその教師ラベ
ルをまねするだけとい

タだけでなく、教師ラ
ベルをいかに準備でき
るかが成功の鍵となる
。AI開発側の立場
からしても、質の良い
データと教師ラベルを
どうやって集めるかと
いう点が、最も時間と
配慮をかける検討項目
の一つになる。

見分けることも柔軟に
対応できるが、AIに
はそれは難しく、もう
一度その時点の欠陥を
精度を前提としたもの
になっており、新たな
教師データを作ること
自体が難しくなってい
まっているだろう。

誤りを測定

理想的な姿

常に新しい教師データ必要

「教師ラベル」

人工知能(AI)に習」と呼ばれるプロセス
対する過度な期待の一
つとして、人間の作業
をAIに代替させ、人
手をゼロにしたいとい
うものがある。以前、
AIが人を完全代替す
でも最も標準的に用

「学習」の側面から 人手介入不可欠な理由

Laboro.AI
代表取締役CTO
藤原 弘将
07年(平19)産業技術総合研
究所入所。12年ボストン・コ
ンサルティング・グループ入
社。AI系
のスタート
アップ企業
を経て、16
年にLaba
oro.AI
を創業。



しかし、データの重
要性は開発時に限った
ことではない点に注意
が必要だ。AIシステ
ムを導入して、その後
も運用し続ける限り、
データとの関係は永遠
に続いていく。
仮にAIが人間の精
人間の場
合、それ
を全く無
くしてしま
う(金曜日掲載)